

常盤の翠

志・寛・録

発行

平成30年11月30日

鹿児島市立伊敷中学校

「何のために勉強するのか」

校長 寺園 伸二

誰でも「どうして勉強しなければならないんだろう。試験なんか無ければいいのに。」と思うことがあるでしょう。

試験は古代中国の隋という時代に始まった「科挙」という制度が起源です。楊堅（文帝）という皇帝が初めて導入しました。家柄や身分に関係なく誰でも受験できる公平な試験で、才能ある個人を官吏に登用する制度は、当時としては世界的にも非常に革新的な制度でした。それまでは貴族として生まれた者たちが政府の役職を独占して、どんなに才能があっても、努力してもチャンスさえも与えられない時代が続いていたことを考えると「科挙」は誰にでもチャンスが与えられるという点で公平で人に優しい制度だとも言えます。文化祭の三年生の劇中に



「何のために受験勉強するのか分からな」と叫ぶ印象的なシーンがありました。試験で公平にチャンスが与えられる今の日本は、考え方によっては本当に平和で幸せな国だと思います。

とはいえ、「あなたは何のために勉強しているのですか。」と問われると考えてしまいますよね。実は二十年前ほど前、当時の中学生約六百人にアンケート調査を行ったことがあります。「あなたは勉強を楽しいと感じることがありますか。」という問いに対して83%が「ある」と答えている反面、「勉強しなくてもすむならどんなにいいだろう」と考えたことがありますか。」と問うと、「考えたことがあ

さらに「では、なぜあなたは勉強するのですか。」と問うと①高校進学や就職のためから41%、②教養を身に付けるため38%、④勉強自体が楽しいと感じるから14%、⑤粘り強さや強い意志などの精神力を高めるため13%という結果でした。実はどれもすべて大切なのですよね。

ここで重要なのは、自分は何をしたいのか、何になりたいのかを考えて勉強しているかということです。担任した生徒が「医師になりたい。」と話したとき、私は「医師になって何をしたいのか。」と問い返しました。医師になったその先に、病気が怪我で困っている人を助けたいという気持ちがあるから、人は辛い受験勉強にも耐えることが出来ると思っております。子どもの頃「大きくならウルトラマンになる。」と言っていた子が、警察官になるための公務員試験に合格しました。今はウルトラマンの代わりに街の治安を守っています。彼は夢をかなえるために公務員試験の勉強に取り組んだのです。「何のために勉強するのか」という問いは「あなたは何になって、何をしたいのか」という問いと重なります。

日新公いるは歌は「いにしへの教えを聞いても唱えても我が行いにせず甲斐無し」という歌が始まります。伊敷中の皆さん、一生懸命勉強しましょう。そして、学んだことを世のため人のために生かしてください。「何のために勉強をするのか。」答へはそこにあります。

HOPE

つなげる想い、生み出す想い

平成最後の伊敷中国文化祭。ただ伝統をつなぐだけでなく、新たな思いを生み出していききたい。「こんな学校を創りたい」「こんな自分になりたい」と考えていく一つのきっかけにしたい……

テーマに込められたそんな願いが十分に達成された文化祭だったのではないのでしょうか。柱となる各学年の総合劇では、これまで積み上げてきた総合的な学習の時間の内容に沿って、笑いあり、涙ありの演技が繰り広げられました。テンポよく言葉の掛け合いがなされていく様子からは、ただセリフを読むのではなく、その人物の気持ちや場面設定を想像して、よりクオリティを高めようという何回も練習したことが伝わってきます。それだけでなくセリフがないときの動作、次のパフォーマンスへのつながり、小道具や背景の画像、効果音のタイミング、またモザイクアートまで工夫が随所に感じられ、みんなで知恵を出し合って劇を練り上げていったことがしっかりと感じ取れました。

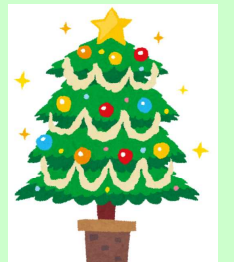
他にも吹奏楽部の演奏や英語暗唱、スキット、弁論、合唱、展示作品の一つ一つまで、毎日の部活動や授業を大切に活動していることが伝わってくる内容でした。日頃、身に付けてきた力が十分に発揮されており、交流することを通してまた次の表現への意欲も高まったのではないのでしょうか。

保護者の皆様も温かいご声援、誠にありがとうございます。御意見や感想等、学校へお寄せいただいたら幸いです。生徒もまた学びの成果を更に実感できるのではないかと考えております。



12月の主な行事予定

- 4日 1・2年授業参観 PTA
- 6日 芸術鑑賞
- 8日 土曜授業
- 13日 読み聞かせ1年
- 21日 2学期終業式
- 22日 大掃除 冬休み (~1/7)



教育相談・三者面談を通して

自分の進路を選択する

行事で慌ただしかった日々も文化祭で一区切り。冬の到来とともに、期末テストや教育相談・三者面談など、自分の成長やこれからの進路について改めて考えていく時期となりました。

なぜ小学校と中学校は分かれるのか、義務教育九年間で一つの学校ではないのか、その大きな意味は自分で進路を決定することにあると思います。三年間かけて自分の興味や関心、適性を見極め、自分の進路を選択していくことが中学生には求められるのです。

入学式では校長先生が「あなたはあなたを選んで進んでいくことは多くの場合、他のものを捨てることと選んでいくことになり得ます。選択する自由には責任が付いてくるのです。」

それはとても難しいことですね。だからこそ、多くの機会に、いろんな人に相談をしてみる大切だと思います。家族、親戚、先生、先輩、地域の方々：それぞれが様々な人生の選択をし、経験を積み重ねて、今の生活を送っています。相談をしてそのアドバイスをしっかりと聞き取り、傾けてみると、教科書やパンフレットには表されない、豊かに生きるための知恵に触れることができるでしょう。

